

指定管理施設事業評価票(令和5年度分)

1. 施設所管課

地域振興 部 栗山行政センター 課

2. 指定管理施設概要

施設名	名称	日光市繁殖牛集中管理センター						
	所在地	日光市上栗山838番地7						
指定管理者	名称	農事組合法人 栗山和牛改良組合						
	代表者名	代表理事 山口 聖治						
	住所	日光市上栗山838番地7						
指定期間		令和2年4月1日			～	令和7年3月31日	5 年間	
選定方法		非公募		評価実施年		5 年間のうち 4 年目		
施設設置目的		日光市繁殖牛集中管理センター条例(平成29年日光市条例第41号。)に定める施設で、繁殖牛の集中飼育管理及び肉用牛群の改良繁殖を行うことで、栗山地区内の肉用牛の生産振興を図ることを目的としています。						
主な実施事業		・繁殖牛及び子牛の飼養管理 ・繁殖牛への人工授精 ・繁殖牛の出産管理 ・子牛の登記に関する業務 ・肉用牛の生産振興に関する情報収集、調査研究に関する事業						

3. 利用状況(目標と実績)

成果指標		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和〇〇年度	
			目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
a	繁殖牛預託頭数	頭	60	58	65	69	76	72	76	61		
b												
c												
d												
e												

4. 指定管理業務にかかる収支状況

(単位:円)

区分		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和〇〇年度
収入計	A	13,086,000	14,854,110	18,630,301	18,537,425	0
	指定管理料			203,125	152,000	
	利用料収入	C 13,086,000	14,300,300	16,907,300	15,682,800	
	自主事業収入					
	その他		553,810	1,519,876	2,702,625	
支出計		B 16,035,957	17,841,539	19,601,467	19,507,509	0
	指定事業費	16,035,957	17,841,539	19,601,467	19,507,509	
	内人件費	D 1,677,470	1,752,000	1,755,000	1,530,440	
	内外部委託費	E				
	自主事業費					
事業収支		A－B -2,949,957	-2,987,429	-971,166	-970,084	0
人件費率		D／B 10.46%	9.82%	8.95%	7.85%	#DIV/0!
外部委託比率		E／B 0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	#DIV/0!

※着色セルは、自動計算としている。

補足説明	

サービス改善の状況


5. 管理運営状況

評価項目		評価基準	指定管理者 自己評価	施設所管課 評価
① サービスの 履行の 確認	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	B	B
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	B	B
		事業計画に即し、計画的に研修等を年1回実施している。	B	B
	外部委託	外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており、適切である。	B	B
		外部委託業者に対して、協定書等を遵守させている。		
	法令遵守等	法令、条例等に基づき、必要な点検、報告等を行っている。	B	B
	個人情報保護	個人情報保護に関する法令を遵守している。	B	B
		個人情報の漏えい、滅失等の事故防止策に対する研修を年1回行っている。	B	B
	情報公開	情報公開に関する法令や条例に準拠した運用がなされている。	B	B
		協定書に従い、情報を適切に管理し、公表している。	B	B
	管理記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	B	B
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	B	B
② サービスの 質の評価	施設管理	協定書に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	B	B
		事故防止及び安全確保のための研修を年1回行っている。	B	B
	利用者対応	利用許可、案内等を迅速かつ適切に行っている。	B	B
		利用者に対して、設備、備品等を適切に提供している。	B	B
	事業運営	言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	B	B
		事業計画に即し、受託事業を実施している。	B	B
		施設の目的に沿った自主事業を実施している。	B	B
	維持管理	事業内容がサービス水準の向上に寄与している。	B	B
		仕様書等に従い、清掃、警備、衛生管理等を適切に行っている。	B	B
		仕様書等に従い、施設や設備の保守管理を行っている。	B	B
	環境配慮	備品台帳に基づき、備品を適切に管理している。	B	B
		協定書に従い、適切に修繕を行っている。	B	B
③ 安定性	環境配慮	環境配慮率選考計画取組点検表において、(1)が取組項目の2/3に達している。	B	B
	広報活動	事業の開催案内、ホームページの管理等を適切に行っている。		
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	B	B
		要望、苦情等を整理し、市に報告している。	B	B
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果が妥当である。		
	利用状況	利用実績は、目標水準である。		
	総括	「業務の内容・水準」に関する評価【18項目】	B	B
	経理事務	協定書に従い、適切に修繕を行っている。	B	B
		専用の口座、帳簿等を備え、適切に経理事務を行っている。	B	B
		収支予算書の範囲内で適正に予算執行している。	C	C
		経費が縮減され、又は縮減に向けた努力を行っている。	B	B
	収支状況	収支予算書と比較して、収支状況は妥当である。	C	B
	総括	「経費の収支等」に関する評価【4項目】	C	C
所見 (成果・課題等)		(指定管理者自己評価)		
		概ね協定書に基づき計画どおり事業を実施することが出来た。		
		前年に引き続き物価高騰による飼料代の高騰や子牛販売額の低迷など経営を圧迫する事態となっている。		
		(所管課評価)		
		預託頭数概ね良好とみられ、子牛頭数の販売頭数も増え順調に経営できている。		
		今後も計画的に子牛の増産に取り組んでほしい。		
		令和5年度は物価高騰による指定管理料の支援を行ったが、良好な改善までは至らなかった。		
前年度総合評価		C(要改善)	総合評価	C(要改善)

※評価区分

評価基準	A(優良)	=	協定等の遵守に加え、仕様書より優れた管理が行われた。
	B(良好)	=	協定等を遵守し、仕様書に沿った管理が行われた。
	C(要改善)	=	一部、協定等が遵守できていない。又は、不測の事態等により仕様書に沿った管理ができなかった。
※施設所管課は、指定管理者に対するモニタリングや事業報告書の内容等を踏まえ、評価します。			
※数値が記載されているものに関しては、数値目標達成がB評価となります。			
総括評価	A(優良)	=	評価項目のうち、A判定が80%以上
	B(良好)	=	A、C以外
	C(要改善)	=	評価項目のうち、C判定が20%以上
総合評価	A(優良)	=	自己評価、所管評価の《総括》にCが含まれず、かつAが4つ以上ある。
	B(良好)	=	A、C以外
	C(要改善)	=	自己評価、所管評価の《総括》にCが2つ以上含まれる。